

令和7年度 第2回はかた伝統工芸館に係る 指定管理者選定委員会 議事要旨

1. 日時 令和7年9月12日（金） 11：00～17：00

2. 場所 福岡商工会議所ビル2階 第1研修室

3. 出席者

（1）はかた伝統工芸館指定管理者選定委員（計5名）

（2）市側

福岡市経済観光文化局総務・中小企業部長

福岡市経済観光文化局地域産業支援課長、伝統産業・技能係長、同係員

（○委員、△…事務局）

4. 審議内容

（1）審査方法について

（2）応募資格の確認状況について

（3）応募団体の財務状況について

（4）プレゼンテーション及び質疑応答

（5）採点・意見交換

（6）集計結果の報告及び公表

5. 議事要旨

【会議の公開・非公開について】

会議の公開・非公開について総務・中小企業部長より説明。

今回の委員会については非公開とするが、議事録は作成し公表する。ただし、指定管理者の選定前までは、不正な働きかけを防ぐため、委員名は非公表とする。また、会議で知り得た情報について守秘義務があるため、情報管理の徹底にはご協力をお願いしたい。

（1）審査方法について

事務局より審査方法について説明を行った。

委員からの質問、意見などは特になし。

(2) 応募資格の確認状況について

事務局より、公募期限までに6団体の応募があったこと、また、応募団体から出された応募書類に不備がなかったこと及び暴力団排除条例に基づく照会を福岡県警察本部へ行った結果により、各応募団体とも応募資格を満たしていることを報告した。

そして、審査項目のうち「地場中小企業への配慮」について事務局より説明を行った。

(3) 応募団体の財務状況について

応募団体の財務状況について、委員より説明が行われた。

(4) プレゼンテーション及び質疑応答 (委員：〇、応募団体A社～F社)

プレゼンテーションの前に、各応募団体へ市職員ならびに選定委員への接触の禁止に関する連絡事項について、事務局より説明を行った。

A社：プレゼンテーション

Aのプレゼンテーションを受け、次のとおり委員から質問・意見があり、A社から回答があった。

〇：A I アバターの活用として、工芸館外での利用も可能としているが具体的には。

A：観光情報を記憶させることができるため、周辺の伝統工芸関連店舗や観光地への動線をマップのように示すことができる。

〇 情報をリアルタイムなものへ更新するのは大変だと思うが、その点どのように対処されるおつもりか。

A：日ごろから作家さんと密接に関わっていくことで情報を得たい。皆さんと一緒に汗をかくという姿勢で取り組みたい。

〇 この指定管理業務に取り組む中で、何を一番重要視するのか。

A：工芸業界が発展し、作家さんたちが継続していくことのできるよう尽力したい。

〇 販売についてどう取り組むか。

A：博多旧市街や関連店舗、工房とつなぐことで工芸品を楽しめるように、地域全体の経済が活性化するように取り組んでいく。工芸品に関わる方一人一人地道に足を運んで、名前を覚えてもらいたい。皆さんに信用していただき、一緒に汗をかきたい。

〇 展示内容はどのように変えていくのか。

A：展示スペースが狭いので、多くのものを見ていただくことは難しいだろう。A

I 活用することで、作品を3D化し細かい部分まで見ていただけるようにしたいと考えている。

○ AI アバターを活用する上での留意点は。

A：人による案内の質の波というのがなくなるので良いと思っている。注意すべきところは、誤情報を発信してしまうこと。その点は人によるサポートを充実させていきたい。

○ 一社) 日本伝統文化検定協会の検定サイトに基づく情報発信とあるが、福岡市では「福岡検定」も実施している。なぜ、「福岡検定」ではなく伝検サイトなのか。

A：もちろん福岡を深堀することも大切だと思うが、伝検サイトでは日本全体の伝統文化について広く知ることできるので、福岡と他の地域を比べてどう違うのか理解してもらいたく、伝検サイトを活用させてもらうこととした。

B：プレゼンテーション

B社のプレゼンテーションを受け、次のとおり委員から質問・意見があり、B社から回答があった

○ 現在ワークショップなどは非常に人気なため、体験学習は実施してもらいたいが、工芸館の狭いスペースの中でどのように実施するか。

B：弊社は旅行会社であるため、宿泊先のホテルで出張工芸体験を行うことができるとし、そういった実績もある。

○：この指定管理業務に取り組む中で、何を一番重要視するのか。

B：伝統というのは守り続けて継承していかなければならないため、まず皆さんに知っていただく、特に学生など若い世代の皆さんに知ってもらうことを重要視した。

○：販売についてどう取り組むか。

B：周辺のレストラン等で販売を取り扱ってもらうことや、修学旅行でのお土産として販売店を紹介していきたい。

○：地域連携をしていく中で重要なことは。

B：博多旧市街をいかに盛り上げるかが重要。事業の目的を明確にし、地域の皆さんに説明をしっかりと行うことで、地域の皆さんが一体化できるように取り組みたい。

○：インフルエンサーを起用とあるが、具体的には誰を起用。

B：インバウンド向けの方や地元の旅行系インフルエンサーを起用したい。

C社：プレゼンテーション

C社のプレゼンテーションを受け次のとおり委員から質問・意見があり、C社から回答があった

○：「次の工芸の創造」とは具体的に。

C：次世代承継という観点から、伝統工芸と新しい分野（デザイナーやアーティスト）とのコラボレーションを考えている。具体的には、インテリアとしての活用など新しい工芸のあり方を模索すること。

○：この指定管理業務に取り組む中で、何を一番重要視するのか。

C：博多旧市街に移ってきたことを機に、点から面で展開していきたい。インテリアの商品開発サポートをすることでホテルへの装飾サポートにつなげるなど。楽しいことは皆さんに受け入れてもらいやすいので「楽しくやる」をモットーに。

○：工芸館において、いかに効率よく売り上げをあげるかが大事かと思うが。

C：魅力ある商品作りもそうだが、作品のストーリーの見せ方が大事。特に欧米系の方などはその点を重視されるので、伝える方法を模索していく。

○：異業種との連携をする上で注意すべき点は。

C：権利関係。

D社：プレゼンテーション

D社のプレゼンテーションを受け次のとおり委員から質問・意見があり、D社から回答があった

○：博多町家ふるさと館とのすみわけはどうする。

D：ふるさと館と工芸館のモデルコースを作成し、フライヤーにして地域のホテル等に置かせていただきたい。

○：この指定管理業務に取り組む中で、何を一番重要視するのか。

D：地域の方を巻き込み、はかた伝統工芸館を誇りに思ってもらい、地域活動の拠点となるようにしたい。特に、小学校で子供たちに伝統文化に伝えていくことが大切で、その中の一人でも伝統工芸の後継者となってもらえるようにしたい。

○：副館長さんとして想定されている方がいらっしゃるようだが、狙いは。

D：博多よかまち応援隊として、博多の魅力を発信してもらいたい。

○：連続で営業利益マイナスが出ているようだが、これはなぜ。

D：弊社の中で若手の人材育成を大きくやっているため。実際に人材を活用してい

ただいているので、収益が上がる体制を確実に作っている。

○：伝統工芸の担い手とはどのように考えている。

D：学生さんたちなどに工芸体験バスツアーを実施するなど、たとえ 100 人の中に 1 人だけかもしれないが「私が工芸の担い手になる」と感じてもらえるような機会づくりをしたい。

○：伝統とポップカルチャーの融合とあるが、地域や関係団体の連携が重要かと思うが、どのように進めていくのか。

D：日本昔話における語り部のようなイメージで、博多の街の歴史や伝統文化を伝えることができるような仕掛けを作っていきたい。

E 社：プレゼンテーション

E 社のプレゼンテーションを受け次のとおり委員から質問・意見があり、E 社から回答があった。

○：イベント体験の新規事業として、こども向けの工芸体験がほとんどであるようだが、その意図は。

E：現在、ふるさと館の自主事業として「博多っ子クラブ」という博多の伝統文化を子どもさんに体験していただく事業を行っている。それを工芸館にも派生させて、毎月 1 回実施したい。

○：ふるさと館とのすみわけは。

E：もちろん、予算も事業も全く別で実施するもの。連携する部分とすみわけをすべきところと意識して運営していく。

○：この指定管理業務に取り組む中で、何を一番重要視するのか。

E：福岡・博多の伝統工芸の総合窓口となれるように運営したい。企業との連携で商品開発や工芸体験等のイベントを行い、販売促進につなげていきたい。

○：Y o u T u b e r さんやアーティストさんとのコラボとして提案されている広報費は実現可能な金額か。

E：実施できていると思うが、予算上難しいのであれば、都度市と相談の上優先順位を付けながら実施していきたい。

○：提案書にクルーズ船からの誘客とあるが、これは具体的に。

E：欧米クルーズ船が主だが、伝統工芸に興味がある方が多くいる。欧米系は特に個人客がほとんどであるので、港での案内を工夫して工芸館にお寄りいただけるような仕掛けを作りたい。

F社：プレゼンテーション

F社のプレゼンテーションを受け次のとおり委員から質問・意見があり、F社から回答があった

○：伝統工芸の活性化のためには、なにが課題と考えるか。

F：コンシェルジュ機能を果たせる人材の育成が必要だと考える。

○：この指定管理業務に取り組む中で、何を一番重要視するのか。

F：職人さんにスポットが当たるような取り組みをしたい。また次の作り手を生み出すためにチャンネル展開していきたい。

○：公共性と収益性のバランスはどう考えるか。

F：指定管理料をいただき事業を行うというのは、民間事業者としては筋力がつかない。他にも指定管理を受けている施設があるのだが、自主事業を行うモチベーションをあげるためにも、毎年度指定管理料を減額してもらうようお願いし、稼げる事業にすべく取り組んでいる。

○：ホテルとの連携の確度は。

F：宿泊事業を行っているため、弊社の人脈を活用することができ実現可能性は高いと考えている。

○：ふるさと館とのすみわけは。

F：館内だけではなく、外に出ることを意識したい。様々な企業と連携事業を行い、広く外に展示・PRしていきたい。

(5) 採点・意見交換

(6) 集計結果の報告及び講評

事務局において採点シートを集計したところ、最低制限基準である合計点数6割を下回る事業者はなく、そのことを事務局から委員へ報告した。集計の結果、順位一位であったC社について、委員からは以下のとおり意見を受けた。

○はかた伝統工芸館における現状の課題や、博多旧市街エリアにおける工芸館が果たすべき役割の重要性をしっかりと認識している。

○次世代への承継を視野に、伝統工芸と他分野のコラボレーションを踏まえた実現性の高い提案であった。

事務局から集計結果と委員の意見を参考に、事務局にて指定管理者候補者を選定する旨を委員へ確認し、閉会とした。

—閉会—